

京都市の靖国神社遺児参拝

一九五〇年代の靖国神社遺児参拝の実像（7）

松岡 勲

はじめに

私の文章が載っている『靖国の父を訪ねて 第十二集』（一九五九年三月、大阪府民生部世話課発行）を再発見した時以来「一九五〇年代の靖国神社遺児参拝」を調べてきましたが、調べ始めた頃から次は「京都市の靖国神社遺児参拝」を調べてみたいと思っていました。なぜかと言いますと、大阪府の場合は「中学校三年生」が遺児参拝の対象であったのですが、京都市の場合は「小学校六年生」であったからです。「なんでまた年端もいかない小学校六年生の集団参拝がなされたのか」という疑問がありました。今回やっと京都市を調べる段階にきました。最初は資料もなく雲をつかむような話でしたが、徐々に霧が晴れたように輪郭が見えてきました。

「戦後五〇周年記念誌」（京都市遺族会連合会）

最初京都市歴史資料館に問い合わせましたが、遺児参拝の資料はありませんでした。また、京都府及び京都市には公文書館がありませんので、京都市情報公開コーナーに電話をし、教育委員会

総務課と戦没者遺族関係の担当課である地域福祉課を紹介してもらいました。しかし、公文書は永年保存の文書を除くと保存期間は一〇年が最長であるため、関係文書は見つかりませんでした。また、京都市の広報（「市民しんぶん」）の原本が残っており、一九五三年（「市民しんぶん」はこの年より発行）より一九六〇年分を閲覧しましたが、遺児参拝の記述はありませんでした。

ただ、地域福祉課は京都市遺族会連合会の事務局も担当しているので、『戦後五〇周年記念誌』（京都市遺族会連合会発行、奥付はないが一九九五年頃のものと思われる。）がありました。それによつて京都市の遺児参拝事業の一部が分かりました。遺児参拝は、一九五二（昭和二七）年度より実施され、一九五六（昭和三一）年度まで記載されていきました。（その後の調査で一九五七年度まで行われていたことが分かりました。）

（一九五二（昭和二七）年度）

第一回京都市代表遺児靖国神社参拝

日時 一〇月二四日～二七日

参加者 京都市内小学校第六学年児童 八〇八名

（一九五三（昭和二八）年度）

第二回京都市代表遺児靖国神社参拝

日時 九月二〇日～二三日（第一団）

（新聞記事）九月二五日出發であったが、台風一三号襲来で延期。別日に実施。

一〇月二五日～二八日（第二団）

参加者 京都市内小学校第六学年児童 一、一一四名

（一九五四（昭和二九）年度）

第三回京都市代表遺児靖国神社参拝並びに東京都内見学

第一団

日時 九月一六日～一九日

参加者 五一三名

第二団

日時 九月一九日～二二日

参加者 五八二名

（一九五五（昭和三〇）年度）

遺児靖国神社参拝並びに東京都内見学

日時 八月九日～八月二二日

参加者 一〇〇八名

（一九五六（昭和三一）年度）

遺児靖国神社参拝

日時 八月九日～八月二二日

参加者 五四二名

（一九五七（昭和三二）年度）

（事業実績の資料散逸）

（新聞記事）八月一〇日の帰京予定の時間が遅れるという記事があり、また、京都市事務報告書に実施の記述があり、一九五七（昭和三二）度までは実施されていたことが分かりました。

新聞記事に掲載された遺児参拝

朝日新聞京都版と京都新聞のマイクロフィルムが京都府立図書館にあり、検索しました。その記事の見出しは以下の通りです。

一九五二年度Ⅱ 「今度はお友達からも／靖国参拝の遺児に愛のは

なむけ」京都（一〇・二四）

「双子児二組も加わって／遺児八百名、廿四日に

靖国へ」朝日（二〇・二二）

「きょう社頭対面／遺児、靖国へ出發」朝日（一

〇・二五）

一九五三年度Ⅱ 「あす靖国神社参拝遺児の壮行会」京都（九・二

一）

「靖国遺児の歓送会／右京・きょう川岡校庭で」

京都（九・二五）

「〃元気で靖国へ」台風の街に運転手の美学」

京都（九・二七）

一九五四年度Ⅱ 「靖国へ」遺児「ならぬ」遺児」／「辞退したが

無理に」／帰洛前に関係者大あわて」京都（九

・二二）

一九五七年度Ⅱ 「帰る汽車が予定より遅れる／靖国参拝遺児団」

朝日（八・一〇）

京都市事務報告書で確認できた遺児参拝

年度末の市議会に報告される京都市事務報告書があり、遺児参

拝が京都市の事業であったことが分かりました。また、事業があったはずの一九五二年、五三年度の記述はありませんが、一九五四年年度～五七年度までの遺児参拝の記述（「遺児靖国神社参拝並びに東京都内名所見学」）がありました。また、一九五七年度の参加者人数が少なく、小学生以外に中学生も含まれていること、翌年以降に遺児参拝の記述がないので、遺児参拝は一九五七年度で終了したものと思われます。京都市遺族会連合会の『戦後五〇周年記念誌』とあわせて見ると、最後の二年間を除き、毎年一〇〇名規模の遺児参拝であったことに驚きました。

| | | | |
|--------|-------|-------|------------------|
| 一九五四年度 | 参加遺児数 | 一、〇三六 | 人（小学校六年在学者） |
| 一九五五年度 | 参加遺児数 | 一、〇〇八 | 人 |
| 一九五六年度 | 参加遺児数 | 五四二 | 人 |
| 一九五七年度 | 参加遺児数 | 一一一 | 人（小学生六九人、中学生四二人） |

京都市の遺児参拝経験者

京都市の遺児参拝の体験者については、京都市学校歴史博物館の和崎光太郎さんの協力により一九五三年に遺児参拝をしたUさんに電話取材をし、三度お話ししました。（残念ながら、お会いすることはできませんでした。）Uさんは一九四二年二月生まれで、お父さんは満州で戦死されていました。その年、当時淳風小学校六年生だったUさんは春日小学校に集合して、京都駅から上京の予定でしたが、台風一三号襲来で参拝は一度延期になり、後日実施されたことが分かりました。二回目の集合場所は京都駅だ

ったと覚えているとおっしゃっていました。直前に学校で壮行会があり、校長の挨拶の後に遺児の五～六人が挨拶させられました。参拝参加は京都市の子どものみで、参拝の感想文は書いていないとのことでした。Uさんの話では、当時遺族会か京都市から「最後の参拝」であると連絡があったこと、遺族会の代表として挨拶した中川源一郎氏（当時の衆議院議員）も同様の発言をされていたと記憶しているとのことでした。しかし、その後も参拝は続きませんでした。

また、小学校で壮行会が行われており、当時のお話を靖国合祀取消訴訟の元原告の吉田文枝さんに聞きました。吉田さんはUさんと同じ淳風小学校の同年度の六学年在学で、Uさんの記憶はないとのことですが、「送られる側」「送る側」にいたことになりません。不思議な偶然と思いました。吉田さんの話で参拝する遺児を「選ばれた人」と見たとのことでした。私には見えていなかった視点です。遺児参拝に「選別」の働きがあったことをもう一度問うてみなければならぬと思いました。「文集」の私の文章に「上から目線」があったことを思い出しました。

それ以外で、四年前に大阪府の遺児参拝を調べていた時に大阪府遺族連合会に問い合わせた際、電話に出られた事務局のKさんが京都市の遺児参拝経験者でした。一九五二年か五三年の参拝と思われる。また、当時小学校での遺児参拝者の壮行会の経験者ももう一人おられます。靖国合祀取消訴訟高裁結審後の集会で私が「靖国文集」の話をしたことがあったのですが、傍聴者の方から「小学校の時、その参拝で友だちが東京に行くのをうらやましく感じました。それで、父がシベリア抑留からの帰還者であったのですが、『なぜシベリアから帰って来たのか？』と今から考え

ると大変ひどいことを言った記憶があります。」とお聞かせいた
だいたのです。

その後、京都府遺族会事務局長の中村秀男さんとお会いしまし
た。中村さんは遺児参拝の経験者で、一九四三（昭和一八）年四
月に生まれ、（私は一九四四年三月生まれですから）私と同年
でした。一九五五（昭和三〇）年の六年生で、京都市の桂小学
校在学でした。夜行列車で一泊、翌日朝に靖国神社参拝、こんな静
かな所で父が祀られているのかと感じ、涙を流したとおっしゃっ
ていました。後は皇居等都内観光、その日は東京泊、夜行列車で
一泊、帰京という行程です。感想文を書いた記憶があるが、文集
をもらった記憶はないとのことでした。

今後、学校歴史博物館の和崎さんの協力で、一九四三（昭和一
八）年、国民学校五年生時の遺児参拝経験者を紹介してもらう予
定です。また、戦前の靖国神社遺児参拝、遺児参拝の戦前と戦後
の連続性を調べたいと思っています。

京都府下の遺児参拝

『日本遺族会十五年史』の記述によると、その都道府県支部概
況編の「京都府」の項に次のような記述がありました。「靖国神
社の集団参拝、特に小学六年在学の遺児を市町村の補助金により
二十六年から三十二年まで京都市を合わせ約八千名を集団参拝さ
せた。」そこで、京都府の遺児参拝事業があったのかを京都府総
合資料館の「行政資料」コーナーで検索をしました。京都府
の事業に遺児参拝はないことが確認できました。京都府の事例が
あったとしても府下の市町村の事例であると思われました。

それで京都府遺族会に行きました。事務局長の中村さんは、京
都府遺族会の所持する府下市町村の遺族会の周年記念誌を五、六
種用意していただいていた。そのうち舞鶴遺族会の記念誌は
作られていないとのことでした。（京都府遺族会の周年記念誌は
遺児参拝に関する文章がありました。文章的には舞鶴市の参拝
が京都市の参拝か曖昧でしたので、遺族会の連絡先を聞き、後日
に舞鶴市で遺児参拝があったのかどうかを問い合わせすることに
しました。中村さんに他の市町村で遺児参拝の話を遺族会の交流
の中で聞いたことはないかと聞きましたが、聞いていないとのこ
とでした。他府県の記念誌も用意していただいたので、福井県、
岐阜県で遺児参拝があったことが分かりました。『日本遺族会十
五年史』『日本遺族会の四十年』にもこれまで確認できていなか
った遺児参拝事例がありましたので、もう一度全国の状況を調べ
直したいと思っています。

その後、舞鶴東遺族会に電話したところ、事務局の四方順子さ
ん（私より一歳下）が小学校六年生の時に遺児参拝に参加したこ
とが分かりました。四方さんが参拝された時より以前の年から（い
つからかは不明）舞鶴市では遺児参拝が行われており、一九五六
（昭和三一）年が遺児参拝の「最後の年」で六年生以外に五年生
も参加したそうです。舞鶴西遺族会の参加者とともにバス一台で
京都まで出て、夜行列車（一泊）↓靖国神社、上野動物園等都内
観光（一泊）↓夜行列車（一泊）だったとのこと。写真も残
っているとおっしゃいました。また、遺族（妻）で靖国参拝に行
けていない人も（四方さんのお母さんもそうだったとのことだ
す）。遺児と一緒に参拝しました。四方さんと遺族会婦人部のみ
なさんのお話が聞きたいので、来年舞鶴に行ってみようと思っ

います。舞鶴は「引き揚げ」の記憶の場でもありませんから、一度訪ねたかった所です。

また、ネット検索（「広報」のアーカイブ）で市町村規模で遺児参拝事業がなされていたことが分かりました。そのなかの京都府関係では宇治市が遺児参拝をやっていました。（「写真目録」、「宇治市政だより」）以下の興味深い記事がありました。

「さる六月九日宇治市の英霊遺族の遺児五十五名は、舞鶴、福知山、綾部の遺児とともに東上、靖国神社参拝、都内見学等の日程を無事すませて、帰宇した。」（「宇治市政だより」第三六号、一九五四年七月一日）

「本年六月に戦没者の遺児約二〇〇名を靖国神社に参拝さすため戦没者遺族対策費として二四万円又遺族国庫債券を担保として貸付金七〇万を出費し遺族の厚生に資して居ります。」（「宇治市政だより」第二九号、昭和一九五三年一月一日）

このことから京都府下の遺児参拝が、京都市とは別に宇治市、舞鶴市、福知山市、綾部市とが組んで合同でなされていたことが分かりました。今後、京都府下の遺児参拝を調べて行くためには大きなヒントとなりました。

おわりに

今回京都市の遺児参拝を調べる過程でひとつの知見を得ました。最初、京都市の参拝が小学校六年生であることを奇異に感じていました。しかし、必ずしも異例ではないのではないかと思ひ直しました。調査のなかで『戦後を生き抜いた妻たちの証言・婦人部戦争体験談集／京都市遺族会連合会婦人部結成五〇周年記念

誌』（京都市遺族会連合会婦人部）に出会いました。京都市遺族会連合会婦人部の結成五〇周年を記念して作られた薄い冊子（取材・編集、早内高士）ですが、二人の戦死者の婦人の証言が、夫の写真を配されながら、戦中の結婚から夫の戦死の状況、戦後の生活との闘いと語られる、証言した婦人の戦中、戦後の苦労を見つめる編集者の暖かくて柔らかな視線を感じさせる、とてもすてきな本でした。その編集者の元京都新聞記者の早内高士さんに連絡をつけたところ、早内さんはお父さんを硫黄島で亡くされておられ、小学校六年生（一九五四年）時の島根県の遺児参拝体験者だったことでした。また、『日本遺族会十五年史』で富山県の遺児参拝文集『のびゆく遺児たち』（一九五四年三月発行）があることが分かり、富山の友人に複写をお願いし、入手しましたが、富山県の場合、小学校六年生・中学生・高校生の参加であることを知り、驚きました。翻って戦前の遺児参拝が「銃後の少国民国民育成」を狙いとして対象が国民学校五、六年生であったことを考えると、私の経験（中学校三年生）は前提にならないのではないか、もしかしてそれは戦後の状況の反映かも知れないと思ひました。また新たな課題が見えてきました。

（二〇一四・一一・二二）

